
恋薫る季節

sachi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋薰る季節

【Nコード】

N5410T

【作者名】

sachi

【あらすじ】

忘れられないわけじゃない。大切な、過ぎ去った青春。

自サイトから転載

冬の乾いた冷たい風から花の香りを含んだ暖かい春の風に変わりゆく頃、私は必ず一人の男を思い出す。

すらりと伸びた身長に、いつも私に見せてくれた暖かい笑み。

懐かしい母校の制服に身を包んだあなたは今年も私の元へ思い出とともにやってくる。

私と彼が付き合っていたのはわずか二年。

けれど一生の中で一番早く過ぎゆく高校生活の中での二年は当時の私にとっては決して短くは無く、そしてその中の思い出も決して少ないものではなかった。

先に好きになったのは彼の方。けれど更に好きになったのは私の方。そして先に気持ちが悪めたのはどちらが先か… もう今ではわから

ないけれど。

別れのきっかけを持ち出したのは私。でも別れの言葉を言ったのは彼。

今から思えば私は彼に辛い役目を押しつけてしまったのかもしれない。今ではもう遅すぎる後悔だけれど。

未練が残ったのも私。結局は自業自得。

別れてから一年。また彼を思い出した。けれどもその時にはお互いに別の相手が隣にいた。

もちろん連絡もとってはいなかった。私は共通の友達から彼の消息を聞いていた。

別れてから二年。彼の隣は空白になり、私の隣はまた別の誰かが埋めていた。

そしてもう一年経つと状況は逆になり、更にもう一年が経つと彼の状況はわからなくなった。

別に彼が初めての恋人だったわけではないし初恋でももちろんない。だけど私は確かにあの時初めて人を好きになった。好きという感情を学んだ。

後に私は伊崎和義という男で愛を学ぶけれど、愛は恋を学ばなければ、やっぱり学べない。

毎年、彼と出会い別れたこの季節に思い出す。いや思い出さずには
いられないのかもしれない。

高校という淡い青春という時期に経験した恋心は、きつといくつ年
を重ねても消えるものでもないのだろう。

私が彼に想う「好き」という気持ちは家族に対するものよりも薄く、
けれどもとても生命力のある頑丈なものだ。

夫の和義や我が子に対する愛とも違う、家族とも違う、親友とも違
う、どこか懐かしさや照れくささを含んだ淡い想い。それが彼に対
する感情そのものなの。

私は妻、伊崎真紀子として夫、和義を愛しているし、我が子もち
ろん愛しているわ。

けれど私の心の小さなところで息づく、名前のまだ変わらない青春
時代その時の香坂真紀子は、彼、高島光樹を想っているの。そして
その心の隅に隠れた恋心が、春の爽やかな風が運び、そして連れ去
っていくの。

だから今日だけは、まだ気温の上がない空気に似合わない花の香
りが漂うこの日だけは、私を香坂真紀子のままに彼を想わせてちょ
うだい。

そうすればきつと明日は伊崎真紀子が良き妻良き母となり家族の輪
を繋ぐから。

今日だけは香坂真紀子でいさせて頂戴な。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5410t/>

恋薰る季節

2011年10月9日03時44分発行